

## EUSI メールマガジン Vol. 096

### 「2つのレファレンダムとイギリス政治 地方工業都市における労働者票のゆくえ」(若松邦弘)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 078】

#### 「2つのレファレンダムとイギリス政治 地方工業都市における労働者票のゆくえ」 若松邦弘 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

イギリスの「離脱ショック」は同国の政治疎外の深刻さを明らかにした。この事件は端的に、伝統的には労働党を支持してきた「オールドレーバー」による反乱と理解できよう。

イギリスにはEUへの姿勢を巡り3タイプの有権者層が見いだせる。大都市の中間層や学生を中心とする「親EU」の層、漁業関係者や自営業主を典型例とする「反EU」の層、そして、元来はEUに無関心で、親EUでも反EUでもない層である。

最後のグループ、なかでも、疲弊した地方工業都市の労働者層である「オールドレーバー」は、過去40年の歴代政権による大都市重視策のもと、主要政党への反発、そして反中央(反ロンドン)・反エリートの意識を強めてきた。もともとは労働党支持でありながら、ブレア期以降は同党からも離れ、また現党首ジェレミー・コービンを強く支持する都市部の知識人・学生ともかみ合わない層である。イギリス政治の主要プレイヤーは、長い時間をかけこの層に蓄積するに至った政治不信の深刻さを見過ごしていた。それが国民投票という千載一遇の機会を得て、現状への批判、そして変革を求め、表面化したのである。

「離脱ショック」は世界を震撼させ、その大きさによって、経済から政党システム、連合王国の構成まで、イギリスのあらゆるものを動揺させている。今までの「イギリス」がばらばらに壊れてしまったかの感もある。第二次大戦後の同国政治史で1、2を争う大事件であり、今後、歴史は新たな局面に入らるう。

そのなか、バランスを逸しているとの批判を覚悟で、あえて微細な点に立ち入れば、今回の結果で興味深いのは、工業都市で、スコットランド最大の都市でもあるグラスゴーとその周辺の自治体で、EUへの「残留」票が「離脱」票を大幅に上回った点である・・・

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol78.pdf>

#### 【EUSI イベントご案内】

#### 1. EUSI 緊急ワークショップ「BREXIT 後のEU－イギリスとEUはどうなるのか？」

日時: 2016年7月12日(火) 18:20-20:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4 ディスタンスラーニンググループ

参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)

パネリスト:

田中俊郎 (慶應義塾大学名誉教授、ジャンモネ・チェア、EUSI 理事)

庄司克宏 (慶應義塾大学教授、ジャンモネ・チェア)

網谷龍介 (津田塾大学教授、EUSI 執行委員)

司会: 細谷雄一 (慶應義塾大学教授、EUSI 執行委員)

<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/eu-brexit20160712/>

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/146798600915/>

## 2. 獨協大学の作内由子先生より、以下の公開講演会のご案内が届いています

科学研究費助成事業・基盤研究(B)

「ヨーロッパ保守政治の構造変容:保守主義・キリスト教民主主義・新右翼」

公開講演会

日時: 2016年7月19日(火) 18:00-20:00

場所: 東京大学山上会館 002 会議室

報告: Koen Vossen 氏 (ナイメヘン大学)

「オランダとヨーロッパの21世紀のポピュリズム」(英語)

Koen Vossen 氏は2007年に戦間期オランダにおける小政党の研究でアムステルダム大学において PhD を取得。現在はナイメヘン大学の政治学の講師で、現代オランダのポピュリスト政党を主な研究テーマとされています。

英和対訳要旨つきで、通訳はありません。

申し込みは不要ですが、人数把握のために、参加をご希望の方は、作内由子 (sakuuchi@dokkyo.ac.jp) あてにご連絡をいただければ幸いです。

## 【日・EU フレンドシップウィーク】

「日・EU フレンドシップウィーク」は、文化、学術、スポーツなどの様々な交流イベントを通して、EU をよりよく知ることを目的としたプログラムです

### 1. パネル・図書展示「今、EU へ発信する NIPPON」

日時: 2016年7月1日(金)-8月5日(金)

場所: 一橋大学附属図書館 雑誌棟連絡通路

主催: 一橋大学 EU 情報センター

2013年に「和食－日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、海外において日本文化が注目されています。今回の EU 展示では、EU へ発信されている「日本文化」を5つ選び、一橋大学の学生さんに自由に紹介してもらいました。関連する「日本文化」についての本も展示されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/eu/2016/index.html>

### 2. EUJ 早稲田より以下のご案内が届いています

「Brexit: The UK in a Changing Europe」

日時: 2016年7月18日(月) 15:00-17:00 (開場 14:40)

場所: 早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館 4階 405教室

講演: アナン・メノン(キングズ・カレッジ・ロンドン教授)

討論: 遠藤乾(北海道大学教授)・中村民雄(早稲田大学教授・EUIJ 早稲田代表)

英国キングズ・カレッジ・ロンドンから気鋭の政治学者アナン・メノン氏を迎え、今後の英国とヨーロッパがどうなるか、「EU 離脱」という国民投票(6/23)の結果を分析します。

主催: 早稲田大学現代政治経済研究所

共催: 早稲田大学地域・地域間研究機構(EUIJ 早稲田、イギリス社会研究所他)

言語: 英語(配布資料あり)

参加: 無料・事前申込要(詳細は以下 HP をご覧下さい)

<http://www.euij-waseda.jp/whatsnew/20160718prof-anand-brexit.html>

【アジア太平洋 EU センター大学院生ワークショップ報告者募集(12/20-21:台湾)】

今年12月に開催されるアジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップ報告者募集のご案内が届いています。

今年度はEU センター台湾(EUTW)による主催で、2016年12月20日-21日に国立台湾大学(NTU)で開催されます。

なお報告する大学院生の渡航費はEUSIが負担し、宿泊費は主催機関(EU センター台湾)が負担します。

そのため報告者の費用負担は、現地での食費などを除き実質的にありません。

ぜひ多くの皆様による参加を願っています。

---

共通テーマ: "Crisis and Opportunity for the European Union"

対象: EUSI傘下大学(一橋・慶應・津田塾)所属の大学院生(修士・博士課程)

報告: 上記共通テーマに関するものであれば何でも可

(政治・経済・法・社会その他いずれも問いません)

言語: 英語

EUSI 内募集期間: 2016年7月16日(土)まで

EUSI 内募集:

1. 名前・所属大学院研究科・学年、

2. 報告タイトルと英文要旨(200 words程度)を、

[info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp) と [tanatoshieu@z7.keio.jp](mailto:tanatoshieu@z7.keio.jp) (田中俊郎 EUSI 理事/選考委員)まで

お送り下さい。応募者多数の場合は2名を選抜し、ご本人に連絡します。

英文報告フルペーパー提出: 2016年11月1日(火)まで(4000-5000 words程度)

英文報告パワーポイント提出: 2016年12月1日(木)まで

渡航: 2016年12月19日(月)-22日(木)の3泊4日

(※ただし会議前日に同地で行われる「Conference on EU's New Strategy and

TTIP」聴講を希望の場合は、12月18日(日)からの4泊5日(宿泊費は台湾側負担))

ワークショップ(本番): 2016年12月20日(火)-21日(水)

ワークショップ会場: 国立台湾大学(NTU)  
<http://eusi.jp/collaboration/program/asiapac-grad-workshop2016/>

#### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)  
「英国に解体のリスク 無法地帯と化する世界」  
『週刊東洋経済』2016年7月16日号(2016年7月11日刊行)  
<http://store.toyokeizai.net/magazine/toyo/20160711/>

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)  
「鼎談 白人中間層の逆襲 欧米から民主主義の自壊が始まる」  
(会田弘継・久保文明との鼎談)  
『中央公論』2016年8月号(2016年7月8日刊行)  
[http://www.chuokoron.jp/2016/07/20168\\_1.html](http://www.chuokoron.jp/2016/07/20168_1.html)

小串聡彦 (EUSI 研究員)  
「英国はそれでもノルウェー型(EEA 型)を選ぶ」  
(「ブリュッセルの政治動向分析」、2016年6月29日)  
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/06/29/>

#### 【EU に関する新刊紹介】

水島治郎編『保守の比較政治学 欧州・日本の保守政党とポピュリズム』  
(岩波書店、2016年7月5日刊行)  
<http://www.iwanami.co.jp/.BOOKS/02/X/0247930.html>

本書の編者である水島治郎先生より、本書のご紹介を頂きました。

---

本書は、ヨーロッパ各国の保守政治について、既成の保守政党、および近年躍進しつつあるポピュリスト政党を主として対象とし、日本政治との比較も交えながら検討した論文集である。

個別の研究を別とすれば、ヨーロッパの保守政党について包括的に論じた研究書は日本では皆無といってよい。しかし、多くの国で与党である保守政党は、現代ヨーロッパ政治の分析において本来は重要な位置を占めるはずであり、その点で本書がヨーロッパ政治研究に貢献しうることがあるのではないかと。以下、本書の「はじめに」に記したことと重なるが、本書の問題意識と概要について述べたい。

近年、日欧で「保守政治」が再び優勢であるように見える。ドイツでは保守政党のキリスト教民主同盟・社会同盟(CDU/CSU)が2013年選挙で圧倒的な勝利を収め、メルケル政権を継続させた。イギリスでは2015年選挙で保守党が単独過半数を確保し、18年ぶりに単独政権を樹立した。1990年代後半からヨーロッパ諸国を席卷した「第三の道」を掲げる社会民主主義政党の時代は過去のものとなり、保守優位の「青の時代」(青は保守系政党がしばしば用いるシンボルカラー)が到来したかのようである。

保守の優位は、EU レベルでも確認できる。2014年の欧州議会選挙で最大会派となった欧州人民党(キリスト教民主主義系)は、前回より得票率は減ったものの、筆頭候補者のユンケル・前ルクセンブルク首相を欧州委員会委員長に選出し、

いわばEUの「政権」与党となっている。

翻って日本ではどうか。ヨーロッパ社民の「第三の道」と共通項をもつ民主党が2009年に実現した政権交代に終止符を打ち、現在に至る保守政権を樹立したのが、安倍晋三率いる自由民主党である。日欧における保守の復権は、はからずも互いに呼応するかのように展開している。

本書の目的は、戦後ヨーロッパ政治の最も有力な政治潮流であり、現在も多くの国で政権を掌握している保守政党、そしてこれに加えて新興勢力として台頭著しい右翼ポピュリスト政党という新たな保守系政党を対象とし、比較政治的に保守政治の構造変容の実態を明らかにすることである。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/mizushima-2016/>

水島治郎 (千葉大学法政経学部教授)

### 【EUに関するニュース】

- 2016年6月14日 片上慶一大使、外務省外務審議官(経済)に就任、駐EU日本政府代表部特命全権大使離任
- 2016年6月15日 EU及び国連ウィメン(UN Women)、男女平等と女性のエンパワーメント協力推進声明調印
- 2016年6月16日 ユーログループ(ユーロ圏財務相会合)、年金制度維持やIMFのユーロ圏経済概観等協議
- 2016年6月16日 第3回EU・韓国サイバー対話、ブリュッセルで開催。サイバー犯罪や安全対策協力協議
- 2016年6月16日 コックス英下院議員(EU残留派)、暴漢に殺害。残留派・離脱派双方、3日間活動自粛へ
- 2016年6月17日 EU経済・財務相理事会、企業租税回避対策指令や銀行同盟強化・国別赤字改善手続協議
- 2016年6月17日 EU理事会、対ロ制裁1年延長。クリミア及びセバストポリへの輸出入・投資・観光等含む
- 2016年6月17日 IMF、国別報告書で、英EU離脱の場合、英GDPは2019年までに5.6%縮小との試算公表
- 2016年6月19日 モゲリーニ上級代表ら、紛争下の性的暴力根絶のための国際デーに寄せて共同声明発表
- 2016年6月19日 ティーマーマンス第一副委員長ら、世界難民の日を前にEUの難民保護取組に関する声明
- 2016年6月19日 伊地方選挙決選投票、ローマ及びトリノ市長選では反EU政党「5つ星運動」候補が当選
- 2016年6月20日 EU外務理事会、サヘル地域の安保・開発、ソフィア作戦強化・延長、中東和平など協議
- 2016年6月20日 EU外務理事会、世界人権・民主主義2015年度報告書を承認。EUの人権問題対策等を評価
- 2016年6月20日 第7回EU・モンテネグロ安定化・連合協議会、同国の改革進展やEU加盟交渉進捗など協議
- 2016年6月20日 第1回EU・中国法務対話、北京で開催。電子商取引や消費者保護に関する意見協議
- 2016年6月20日 財務省貿易統計、5月対EU貿易(速報値)は、輸出5778億円・輸入6514億円で736億円の赤字
- 2016年6月21日 欧州委員会、租税回避に対する包括的対策(1月28日提案)へのEU加盟国合意を歓迎の声明
- 2016年6月21日 モゲリーニ上級代表ら、トルコ当局による人権活動家と報道関係者逮捕を懸念する声明
- 2016年6月22日 EU、対中国新戦略「EUの対中国新戦略の要素」発表。対中基本政策を10年ぶりに更新
- 2016年6月22日 EU報道官、北朝鮮の中距離弾道ミサイル「ムスダン」発射実施は国際法違反との声明
- 2016年6月23日 英、EU残留・離脱問う国民投票。残留1614万1241票・離脱1741万0742票で離脱派が勝利
- 2016年6月23日 第13回EU・韓国合同委員会、ソウルで開催。外務局長級で政治・社会・科学協力等協議
- 2016年6月24日 ユンカー委員長らEU機関4首脳、英国民投票の結果を尊重、離脱手続実施促す共同声明
- 2016年6月24日 キャメロン英首相、首相官邸前で演説、辞意表明。9月9日保守党新党首選出へ
- 2016年6月24日 スコットランド行政府スタージョン首席大臣、記者会見で独立住民投票の再検討示唆
- 2016年6月24日 G7財務相・中銀総裁電話会議、英国民投票を受けて金融安定と市場不安解消を謳う声明

- 2016年6月25日 独仏伊など EU 原加盟国 6カ国外相会合、ベルリンで開催。英に EU 離脱早期通告を求める
- 2016年6月25日 スコットランド行政府緊急閣議、有識者委員会創設。EU 残留に向けた作業検討開始
- 2016年6月25日 ヒル欧州委員(金融サービス担当:英出身)辞意表明。ドムブロフスキ副委員長引継ぎ
- 2016年6月25日 モゲリーニ上級代表、拷問の犠牲者を支援する国際デーを前に、EU の取組を謳う声明
- 2016年6月26日 スペイン総選挙、国民党が1位も過半数未達、社会労働党2位死守、反 EU のポデモス3位
- 2016年6月27日 EU・米外相会談、ブリュッセルで開催。英 EU 離脱投票後の EU・米パートナーシップ確認
- 2016年6月27日 マルムストロム欧州委員(通商担当)、英 EU 離脱投票後も EU の通商協定交渉推進する声明
- 2016年6月27日 独仏伊首脳会談、ベルリンで開催。EU 離脱通告するまで非公式含め英との交渉一切拒否
- 2016年6月27日 駐台湾欧州経済貿易事務所(EETO)、『EU・台湾関係概況』2016年度公式報告書発表
- 2016年6月28日 モゲリーニ上級代表、EU の新グローバル戦略発表。EU の対外原則・利益・優先事項規定
- 2016年6月28日 欧州議会、英側の EU 離脱への迅速な手続実施と EU 側の早急な改革必要性謳う決議を採択
- 2016年6月28日 杉山晋輔外務次官、英国民投票結果を受け EU・英国訪問。今後の影響含め関係者と協議
- 2016年6月28日 第6回 EU・インドネシア人権対話、両者制定の人権行動計画や難民保護・企業 CSR 等協議
- 2016年6月28日 イスタンブールの国際空港でテロ、45名犠牲。翌日モゲリーニ上級代表ら、哀悼の声明
- 2016年6月28-29日 欧州理事会、英国民投票の報告や難民問題、単一市場、新グローバル戦略など協議
- 2016年6月29日 英除く EU27 加盟国首脳非公式会合、EU の結束確認ならびに英に EU 離脱早期通告促す声明
- 2016年6月29日 日・EU 及び日英外相電話会談。英国民投票や EU 新グローバル戦略・在英企業環境等協議
- 2016年6月29日 スコットランド行政府スタージョン首席大臣、欧州委員長らと会談、EU 残留希望表明
- 2016年6月30日 第12回 EU・トルコ加盟交渉閣僚級会合、財務・予算規則(アキ第33章)に関する交渉開催
- 2016年6月30日 第4回 EU・モンテネグロ加盟交渉次官級会合、食品安全・検疫及び漁業分野の交渉開催
- 2016年6月30日 日英首脳電話会談、EU・英協調や在英企業環境・経済金融安定協力・EPA/SPA 交渉協議
- 2016年6月30日 ジョンソン前ロンドン市長、英保守党党首選不出馬。メイ内相・ゴブ司法相ら5名出馬

### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、東京外国語大学の若松邦弘先生から、EU の一番ホットなテーマについての鋭い論稿をいただきました。

英国の EU からの離脱によって最もダメージを受けるのはドイツであるという意見があります。確かに、英国は常に大陸から一定の距離を置いてきましたし、統合推進派のドイツとは様々な点で対立点があったことは事実です。しかし、英国は EU 第二の経済大国であり、また、国連安保理の常任理事国という立場を活かして、EU における外交や安全保障の分野において存在感と大人の対応を示してきた国でもあります。それに比べると、フランスの経済はより脆弱であり、社会不安も増長し、オランダ大統領の指導力にも陰りがあることを考えると、独仏枢軸のパートナーは必ずしも頼りになる存在とは言えません。イタリアやスペインを例にとるまでもなく、また北欧諸国の状況を考えても、欧州全域で「中道の崩壊」という現象が進行しているように思われます。ドイツにおいてすら、キリスト教民主・社会同盟と社会民主党という大連立を構成する勢力の支持率の合計が過半数を切る勢いとなっています。英国の離脱という現象をきっかけにして、自由、民主主義、人権といった共通の価値や統合の理念の基盤が揺らぎかねないのかどうか、これからも注視していく必要があると思われま。

(藤川哲史・EUSI メールマガジン編集担当)

前回の編集後記にも書いたように、EUは新グローバル戦略を6月28日に発表し、また先日のNATOサミットでは初となるEU・NATO共同宣言を締結するなど、ここ最近外交・安全保障政策に関する大きな動きが相次いでいます。

そのような中で、先日の英国国民投票の前日にあたる6月22日に、EUは新たな対中国基本政策を10年ぶりに発表しました。「EUの対中国新戦略の要素」と題するこの文書は、今後5年間のEUの対中国政策の基本方針や原則を規定したものであり、6月10日に行われたモグリーニと楊潔篪によるハイレベル戦略対話を受けた後に最終的に確定したものと考えられます。

この文書を読むと、EUは対中政策における「現実的な利益」と「規範的な要求」をいかにバランスしながら行動してゆくか、という点を見定めようとしている様子が伝わってきます。

よく日本国内では「欧州は中国との経済的利益を優先するあまり中国に過度に接近しようとしている」との論調を見かけることがあります。今回発表された文書はこのような利益一辺倒のイメージよりも、むしろ「このような互惠関係を深めるためには、中国自身もEUの持つ規範を受け容れることが前提となる」との規範的な要求をより前面に出した文書であるような印象を受けました。

このような文書を携えながら、明日から北京ではEU・中国サミットが開催されます。また今週後半には本年で20周年を迎えるASEM(アジア欧州会合)首脳会議を控えるなど、今後しばらくはEUとアジアとの関係を考えるうえで重要な週となるでしょう。

また明日は、EUSIでBrexit後のEUと英国に関する緊急ワークショップを開催する予定です——どうぞ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(林 大輔・EUSIメールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---